
鼻毛にまつわるエトセトラ

ケイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鼻毛にまつわるエトセトラ

【ZPDF】

Z97880

【作者名】

ケイ

【あらすじ】

4本の鼻毛がおりなす、ハナゲチックで切ないラブストーリー。
。これを読んだら、鼻が小さくなります。え? なんでかつて? 小話
(コバナ(小鼻)シ)だから(笑)

(前書き)

いろんな悩みがあると毎日ひなびて、もうこいつとやらなければダメ」として思
れさせたまづが得。

か。 そうだね、話すひとなんて何もないけど昔話でいいなら少し話そう

昔さ、バイトしてたときに先輩とよく飲んでたんだけど、その先輩（S）は、同僚のRさんに惚れてて、ある日、ついに先輩はその人に告白する決心をしたんだ。

でさ、先輩がRさんに、休みの日に飲もうよって誘つてね、OKも
らって、ふたりがいっしょに飲むことになつたんだ。

で、先輩にRさんが来るまでいいから飲まないかつて言われて、それまでいつしょに飲むことにしたんだ。

でね、飲んでしばらくたつて感覚しないと気づいたんだ。

あ

鼻かく

黒い糸たらしてゐ

ちょっと酔つてたんで

最初はそういうのが、今流行つてんのかな？

つて思つて、

先輩に聞こひうとして顔近づけたとき、

ん？

左の穴からだけ飛びでてんな。

ん？

アレ？

「」、

よく見たら、

鼻毛じやね？

アレ？

今からRさん

口説くんだよね。。。

「」ってヤバくない？

つていうかヤバくない？なにげにヤバくない？

つて思つて

やつぱ自分によくしてくれるとい先輩だつたから「」は彼を傷つけ

なんとかこの不注意に気がつかせてあげようつてしまつて思つてみた。

まず、

自分の鼻をやたら氣にするそぶりを見せた。

先輩と話しながら、
鼻をかいたり、

自分の鼻を指さしたりしてみたんだけど、
気づいてくれない。

「トバの端々に、

それとなくキー ワードとかも入れてみた。

『^{ハナ}鼻ミズキつてい い歌ですよね~』

とか

『アレ?』とわざでよく 『う鼻(棚)からボタモ チつてビツ』
う意味で したつけ?』

とか

『遠距離なんかで、彼女 と鼻(放)れるのつてけ つじつらい
ですよね。』

とか

『サッカーで、ドイツの 鼻ゲルマン魂に感動し ましたよ。』
と、露骨に暴露したりもしてみたけど先輩は緊張してるみたいでま
つたく気づいてくれない。

で、なんでか近くにいたおっさんの一人組が笑つてんだよね。

もうだめかな、つて思つたときに先輩が

『ちょっとトイレ行つて鏡見てくる』
つて言つてトイレに向かつた。

あ、俺のはなげ（けなげ）な合図に気づいてくれたんだなって、そのときは心の底からホッとした。

少したつて、先輩が戻ってきた。

『髪、セットしてきた』って言って座った瞬間、俺は自分の目を疑つた。をい、右からもなんか出てんぞ。

ありえないよね。

髪セットしに行つて、鏡で自分の顔見てきて、何をどうしたりこんな出来事が起つてゐるの？

つてか、どんなセットのしかたしてんだよ。

見事に一つの穴からコニニチハしてるじやん！

コニニチハナゲじやん！両刀使い氣取りですか、コノヤロー！！！

となりのおっさん爆笑してるし。

何？今、流行つてんの？それ？

俺が間違つてたの？

つて思つた瞬間、なんかどうでもよくなつてね、酔いに任せで

『なんでやねん！増殖し とりますがなつ！…』って言って先輩の顔、ひつぱたいた。

仕事できるし、付き合いいいし、尊敬してたから。それだけに熱がこもつちゃつて、関西弁（笑

おっさん、大爆笑。

さすがにムカついたんで鼻から酒飲ませた。

その後、先輩に

『先輩、鼻毛がコンニチハします。』

つて、やさしく教えたつもりだったんだけど、興奮してて、俺の声が荒くなつてたみたいで客の注目の的、かつ見事に笑いをとつた。その後、先輩は鼻毛を直しに再びトイレに向かつた。
正直、帰りたかつたけど一番痛いのは誰か考えてみろーー。
つて自分に言い聞かせてなんとかこらえた。

先輩が戻つてきて、イスに腰掛けたとき、ようやく待ち人が現れた。
時計見たら、約束の時間をとつくに過ぎてたし。まあ、時間通りに来なくてよかつたつてホッとしたけど。

つてか、疲れてたんで、テキトーにあいさつ済ませて
『それじゃ、俺はこれで。』

つていつて、立ち去りとしたときに先輩とRさんが同時に腕つかんできて『もうちょっと、いーじ ゃん！』
つて、真剣な顔で訴えかけてきたんで、しかたなく残ることにした。
しばらく先輩とRさんが話してたんだけど先輩がトイレ行つてくるつて言つて席を外した。
さつを行つたばっかじやんつて思つたけどいろいろあつたし、落ち着きたいんだろうと思つてね。その場の空気を保持しようとRさんと話そうとしたときアンビリーバブルな奇跡が起つたんだ。

Rさんの鼻から、

しかも一つの穴から2本の『黒んぼ』がコンニチハビリカ握手してんじやんーー！
絡みあつてんじやんーー！

つてか、

さつきの先輩もさうだけど、何で2本!?

せめて一本でよくなない?日本(2本)人だからですか?

『冗談にするなってねー

とりあえず、もう疲れてたんで思考がつまく動かなくて、

『最近、忙しいんですか?』

と俺。

なんか忙しいと鼻毛に手をかけるヒマもないついでから、あたり
さわりのないところから触れてみた。

Rさん

『うん、最近やるじで、すきで、けつじつ疲れてる』

俺

『あー、やうなんだ。忙しいとか、肌の手入れとかできなくな
い?』

Rさん

『うん、あんましやつてない』

俺

『鼻の手入れとかさ』

Rさん

『鼻?なんで鼻?』

Rさん、笑いながら、反応する。

俺

『 おじことを、 鼻からなんかでてくる感じない? 』

Rさん

『 あー、 一キビとか、 油とか? うん、 たしかに とできやすくなるよね? 』

いや、 違うから。

俺が言いたいのは

今、 目の前で絡まってるもののことだから。

俺

『 うーん、 そうだね。 あと、 鼻毛とかね。 』

Rさん

『 鼻毛? 鼻毛つて(爆

なかなか出ないよ、 そんなん

俺

『 ですよね~』

もうしかたないっていうか、 早くこの場から立ち去りたかったし、

俺

『 疲れてるつていいってたから、 マッサージしてあげる

Rさん

『 え? マッサージ? 』

当然、笑う。

が、お構いなしに続ける

俺

『 そう、マッサージ。俺 、得意だから。肩たた くだけだから。』

勝負は一瞬。

ミスは許されない。

彼女の裏手に回り、目をふさいで、鼻毛? 本をぶっこ抜く。

それしか方法はない。

つてか、もうそれしか思いつかない。

といふか、具合が悪い。早く帰りたい。

俺

『 じゃあ、ちよっと最初 ビビッとするから。』

Rさん

『 えー~? ビビッて何? 』

せつも思い浮かべたシミュレーション通り、

皿をふさいで、鼻毛を抜いたつ! -

と思つたら、汗ですべつた。

げえつ、最悪! -

Rさん

『 痛つ! -

何! -

何したの! -』

『いじめん、言つたら氣まずいと思つて言えなくて……』
俺
結果オーライ！！
もう一度。

ぶちっ！！

『やく抜けた。
抜いた鼻毛を捨てて

Rさん

『いだつっーー！』

俺
『ゴメンゴメン、

今のが最近流行つてゐる 電氣治療つてやつだよ 僕、静電氣出や
すいか ひ

苦じまぎれのウソとはいへ、それが今の俺にできる精一杯のフォロ
ーだつた。
でも、

Rさん
『つてか、
鼻毛抜いたでしょ？』

と怒り口調でつっこんできた。

R
さん

『いぢ、いぢーかーかーかー！

最悪なんだけど

出でるの?

俺

『はい、出てました。
すいません。』

R
さん

『ぐんも気付いてた？』

『さあ、わかんないです
なんか来たときから
お腹の調子が悪いみたい
で。』

R
せん

「あー、そりゃ。

無言状態が続く。

モードル

でも、俺は何一つ後悔してない。

失敗をいちいち悔やんでもしかたない。

俺

『S先輩のこと、どう思つてます?』

単刀直入に聞いてみた。

Rさん

『 . . . 賴りがいがあつて、 いっしょにいると安心 する』

それから無言で俺はトイレに向かつた。

先輩は、なんか鏡の前でウロウロしてた。

俺

『 先輩、 Rさんが、 先輩と ずっといっしょにいた いって言って ましたよ 』

アレ? なんか違うか?

まあ、 そんなカンジなこと言つてたよな。

先輩

『 え! ?

マジ! ?

聞いたの? 』

俺

『 先輩のこと、 待つてま すよ。

俺、 もう帰りますんで がんばってください』

つて言つて、 ふらつきながら帰つた。

気がついたら、 公園のトイレで寝てた。

携帯見たら、 昼過ぎてた。

あ、 メールきてるし。

先輩からか。

先輩

『Rさん、彼氏いるつて言つてたよ』

それだけ。

それから先輩とは一言も口聞いてない。
てか、完全にシカトされてた。

Rさんは、そのあとすぐにバイトやめて、その後のことはわからな
い。

先輩もしばらくしてやめた。

俺は、そのあと少し続けてやめた。

現実と理想はかけはなれてる。

なかなかハッピーハンドってわけにはいかない。

パイレーツで有名なジョニー・デップはコングっていう役を演じた
ときにも、こう言つてた。

『俺が演じたコングって役は、人生において、明らかに間違ったこ
とをして、それに気がついていながら、自分の罪を乗り越えていく
ことで、過去を振り返ることなく、そのときに進もうと必死に願つ
た人なんだ』

つて。

その言葉を聞いて、

失敗したからってそれで終わりじゃない。

その失敗を乗り越えていくことで、立ち止まらずに、先に進めるん
だつて思つて、俺は今を生きてる。

誰だつて思い出したくないことの一つや二つはある。

そういうのは、笑い話にして捨てるのが一番だと思つよ。

最後にこの物語はフィクションではありません。ノンフィクション
でもありません。
しいて言つなら、ハックション・・・(へー

(後書き)

鼻毛にまつわるHTセトラ、いかがでしたでしょうか？みんなの鼻の健康を祈って、あとがわひとせていただきます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9788c/>

鼻毛にまつわるエトセトラ

2010年10月22日00時38分発行